

市議会議員定数 29人 ↓ 26人へ

昨今の厳しい市の財政状況や社会情勢を踏まえ、議会みずからが行財政改革の必要性を認識のもと、二十九人の議員定数を二十六人としします。

- 問** 議員を減らすことが行財政改革か。三人減でどうなる。
- 答** 議会改革が財政改革と異なります。約二、〇〇〇万円の減額。議場のいすは二十七で、議場の改修は考えません。
- 問** 削減と行政改革は相入れないではないか。議決権・市民の声をどう盛り込むのか。
- 答** 市民の声は盛り込まれます。人数は総意によりります。
- 問** 市民・各界代表の法定合併協議会で決めた二十九人という定数を勝手に変えていいのか。二十六人の根拠は。
- 答** 人数は状況で決まります。市民も望んでいます。二十九人の定数に対し一〇％減らし、妥当と考えます。
- 問** 議員一人当たりの人口は約二、三〇〇人から約四、〇〇〇人になる。市民の声が届けられるのか。
- 答** 活動の仕方でも決まります。
- 問** 定数削減すると新しい人が出づらくなる。だれでも立候補でき、参加するのが基本。
- 答** 心配する必要はありません。意欲を持つて新しい人が出ればいいのであり、個人の意志です。

大井プール 事故再発防止策等の調査特別委員会 設置

11の調査項目を活発に論議

全会派で協議の結果、会期を延長して「ふじみ野市大井プール事故再発防止策等の調査特別委員会」で2日間の調査を行ない、議会最終日に委員長報告が行なわれました。

第三回定例会で「大井プール事故に対する徹底した事故原因の究明と再発防止を求める決議」を行なった市議会は、その後外部の識者を交え設置された「ふじみ野市大井プール事故調査委員会」から報告を得ました。その中で今回の事故は、「施設の構造的な欠陥と、人為的なミスが重なり起きてしまったものである」との指摘をされました。

議会では二度と同じ事故を繰り返さないための方策を確立し、市民が求めている「安全・安心なまちづくり」を早期に構築し、日々利用する公共施設の信頼性を一日でも早く回復すべく、会期中に超党派の代表で論議が重ねられました。これに基づき、議長の発議による「ふじみ野市大井プール事故再発防止策等の調査特別委員会」の設置を全会一致で了承しました。

委員は十一名、会期は二日間、委員長に加藤末勝委員を選出し調査しました。内容は「現状の把握（四項目）」「再発防止の提言（七項目）」です。市長及び教育長、その委任を受けた者の出席を求め、活発な論議と参考資料の提出・確認がなされ、最終日に報告がされました。

10月12日 第2回臨時会
「ふじみ野市大井プール事故の調査に関する決議」 **否決**

大井プール事故の再発防止等の調査をする特別委員会設置を内容とする「ふじみ野市大井プール事故の調査に関する決議」について審議が行なわれ、賛成少数で否決されました。また、「北朝鮮の核実験に対し厳重に抗議する決議」が提出され、全会一致で可決されました。

10月25日 第3回臨時会
公共施設のAED、大井小雨水浸透槽の設置 **可決**

公共施設70カ所へのAED（254万円）の設置と大井小学校雨水浸透槽等の設置工事（3,500万円）を実施する補正予算が、全会一致で可決されました。

また、正副議長選挙が実施され、議長に田中雅規議員、副議長に佐藤英夫議員が選出されました。そのほかに、各委員会委員の選任が行なわれました。



大雨の後の大井小校庭

市長及び助役並びに教育長の給与の減額条例

平成18年7月31日にふじみ野市大井プールで起きた女児の死亡事故に対し、公の施設の管理者及び職員の管理監督者としての責任を明らかにするため、市長が減額50%6ヵ月、助役・教育長が減額40%4ヵ月とする議案が提出されました。

提出議案と審議結果

- 平成18年 第4回定例会
- 平成18年度補正予算
- 一般会計
- 国民健康保険特別会計
- 老人保健特別会計
- 介護保険特別会計
- 下水道事業特別会計
- 条例の制定
- 市長及び助役並びに教育長の給与の減額条例
- 市議会議員定数条例
- 条例の一部改正
- 部室設置条例
- 議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等条例
- 国民健康保険条例
- 老人医療費の支給条例
- 学校設置条例
- その他
- 彩の国さいたまづくり広域連合の規約変更
- 埼玉県後期高齢者医療広域連合の設立について
- 市議会会議規則の一部を改正する規則
- 道路線
- 道路線の認定（16件）
- 意見書
- 障害者自立支援法制度の充実を求める
- プール運営における統一した管理基準の制定を求める
- プール条例の制定と管理機能強化を求める
- 以上、可決
- 全員賛成 ●賛成多数

自由民主クラブ **賛成**

三役の責任を明示したものと理解

三役の責任を明示したものと理解できる。今後、遺族に対し誠心誠意対応され、市の施設において二度とこのような事故を起こさないために、個々の施設の管理には十分注意し、安全・安心のまちづくりに市長をはじめ、職員が一体となって取り組んでもらいたい。

日本共産党 **反対**

説明もなく提案として不十分

市長は、町長時代からこの施設に二十一年間かかわってきたが、最高責任者として何が不適切で、どんな行為が問題なのか市民に説明をしていない。突然本議案を提案し、市民への周知、内容確認をする時間もないまま審議するのは問題。また、給与の減額割合、月数の根拠についての答弁もない。

公明党 **賛成**

市長の職を全うすることを期待

市長は、事故後一貫して誠意を表してご遺族に対応してきた。辞職をするより、この事故を風化させず、このような事故が二度と起こらないよう住民に安全・安心で豊かな暮らしを保障するため、市長の職を全うすることを期待する。

民主党・市民クラブ **賛成**

市長の姿勢に全幅の信頼を寄せる

この事故に正面から取り組み、責任の所在を明らかにし、こたえようとしてきた市長の姿勢に全幅の信頼を寄せるといふ観点から賛成する。また、全国でこの事故について注目し、本市の対応が注目されている。日本一安全なふじみ野市をつくらなければならないことと考えてもらいたい。